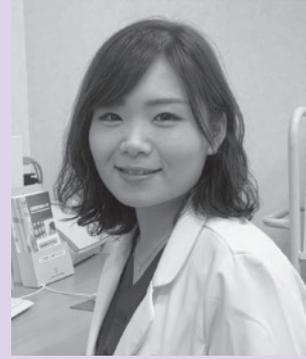


私のカルテ

No. 381

胆のう結石について

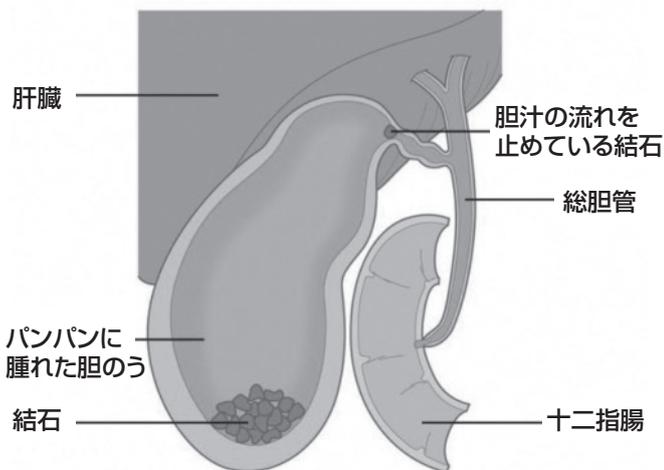
津島市民病院
外科医師長野
なほの
菜月
なつき

はじめに

胆のうとは、肝臓で作られた胆汁という消化酵素を蓄積濃縮するための臓器です。

食べ物が胃から十二指腸へ入ってくると、その刺激で胆のうが収縮し、胆管から十二指腸へ胆汁を送り出します。

胆のう結石とは胆のうの中に石ができた状態のことで、この石が胆のうの出口に詰まると胆のう炎を引き起こしたりします。また、胆のう結石が胆管に落ちってしまうこともあり、この状態を胆管結石といいます。



症状

胆のう結石がある方全員に症状が出るわけではなく、無症状の方もいます。代表的な症状は、胆石発作と呼ばれる激しい腹痛です。右の上腹部が痛むことが多く、みぞおちや背中に抜けるような痛みを感じる方もいます。食べ物、特に油分の多いものを食べると胆のうが収縮し、胆汁とともに胆のう結石も胆管のほうへと押し出されます。そして胆のう結石が出口に引っ掛かり、痛みが引き起こされるのです。

腹痛のほかにはしばしばみられる症状は発熱です。胆のう結石が胆のうの出口に詰まり、胆のう内で細菌感染を起こすことで起きる症状です。悪化すると胆のう炎という状態になります。

治療

無症状の胆のう結石に関しては、必ずしも治療を必要としません。腹痛などの症状がある場合は、まずは鎮痛剤や抗生剤で治療したのちに、胆のうを摘出する手術を行います。

胆のう結石・胆のう炎の場合は、腹腔鏡を用いた手術を行うことが多く、合併症などがなければ当院では術後3~4日で退院可能となります。開腹手術の場合はお腹の傷が大きくなるので7~10日後に退院となります。

腹腔鏡下手術について

腹腔鏡手術とはお腹に小さい穴を数カ所開け、二酸化炭素でお腹を膨らませ、カメラを入れてモニターに映った画像を見ながら、別の穴から道具を入れて行う手術です。従来はお腹を大きく開けていた手術も、腹腔鏡で行うことが多くなってきています。

腹腔鏡手術は傷が小さいため、「術後の痛みが少なく、早く動けるようになる」「腸閉塞のリスクが下がる」「入院期間が短くなる」といったメリットがあります。

しかし、すべての方に腹腔鏡ができるというわけではありません。何度か手術をしてお腹の中がくっついていたり、脂肪の多い方では操作が困難になってしまうのです。そのため、腹腔鏡を選択する場合には「手術歴」「内臓脂肪」「炎症の強さ」、がんであれば「腫瘍の大きさ・広がり」などを考慮して腹腔鏡手術が可能かどうか検討します。

胆のうの手術では腹腔鏡手術が一般的ですが、炎症が非常に強い方や止血困難な場合は開腹手術に切りかえる可能性もあります。

最後に

胆のう結石のある方はたくさんいらっしゃると思います。腹痛などを繰り返している場合には受診を勧めます。また、腹腔鏡手術で脱腸や虫垂炎などの手術も可能です。治療を希望する方は、一度病院で相談してみてください。